

總

目

次

第一卷

はじめに
1

第一章 出石の自然環境

この章のあらまし
10

第一節 宇宙時代の地球観
12

宇宙的視点に立って
12
地球の歴史
12

第二節 近畿北部および出石の地史
15

1 第四紀地殻変動(ネオテクトニックス)
15

2 古生代～中生代中期の地史
17

3 中生代末期～新生代古第三紀の地史
15

4 新生代新第三紀の地史
20
まえがき
23

高柳累層の時代(約二〇〇〇万年前)
23
八鹿累層の時代(約一八〇〇万年前)
24

豊岡累層の時代(約一五〇〇万年前)
25
村岡網野累層の時代(約一三〇〇万年前)
26

の時代(約一〇〇〇万年前)
27
照来層群の時代(約一〇〇〇万～四〇〇万年前)
28

丹後累層
26

.
23 20 17 15 15

.
12 10

段丘相当層の地史 (約六〇万～二〇万年前)	宮内礫層・29	福知山累層・30
第三節 出石の気候	6	海成沖積層の地史 (約三万年前～現在まで)
第四節 出石の生物	34	地形による気象の特徴・35
地形的・地質的景観・42	四季の気象・37	
失われたと推定される生物・58	出石町の植生・48	
今後保護すべき生物・60	町内から失われた生物・52	
第二章 考古学からみた出石	72	
第一節 原始時代の出石	74	
人類の発生・74	出石町住民第一号は縄文人か・74	
縄文時代への胎動・77	旧石器時代・75	
縄文時代の出石	石器の編年と遺跡・75	
縄文時代の但馬・78	縄文時代草創期・78	
縄文時代の後期・82	縄文時代の前期・80	
時代の中期・81	出石町の縄文遺跡・84	
縄文海進による変化・82	縄文	
第二節	78	

縄文時代の終末 ··· 85

第三節

弥生時代の出石

稻作農耕が花開く ··· 87

弥生文化の波及 ··· 89

弥生時代中期 ··· 91

弥生時代後期 ··· 97

銅鐸か

· · · · ·

から古墳出現へ ··· 102

古墳時代から新しい時代へ ··· 131

· · · · ·

第四節

古墳に埋葬された人々

· · · · ·

稻作文化の到達点 ··· 107
式石室へ ··· 112
組み合わせ式箱形石棺 ··· 125
須恵器 ··· 130
天日槍伝説と出石 ··· 136
天日槍伝説のあらまし ··· 137
天日槍伝説の本質 ··· 142
田道間守の常世行き ··· 150出石の古墳 ··· 108
横穴式石室の時代 ··· 118
古墳時代から新しい時代へ ··· 131但馬の古墳 ··· 109
横穴 ··· 120
銅鏡を持つ古墳 ··· 126
石枕 ··· 127
石棺の石材 ··· 128最古の古墳 ··· 110
在地型の墓制 ··· 123
木棺直葬墓 ··· 124
土師器 ··· 129

· · · · ·

第二章

古代の出石

· · · · ·

この章のあらまし

· · · · ·

第一節

天日槍伝説

· · · · ·

天日槍伝説のあらまし ··· 137
天日槍伝説の本質 ··· 142
ホコの呪力について ··· 147
清彦の神宝奉獻 ··· 149
田道間守の常世行き ··· 150

天日槍伝説と出石 ··· 136

出石乙女 ··· 147

出石の神宝 ··· 146

天日槍にまつわる神社 ··· 152

· · · · ·

第二節

但馬と天皇家

· · · · ·

但馬国造の成立 ··· 157

皇妃と王子 ··· 161

名代・子代の部 ··· 163

· · · · ·

第三節 律令制下の但馬	165	出石郡は上郡	169	出石郡衙は出石郷	169
大化改新と律令政治へのあゆみ	165	但馬国は上郡	168	出石郡衙は出石郷	168
出石郷	172	安美郷	173	室野郷	174
小坂郷	173	塙野郷	174	高橋郷と資母	174
郷	174	地方政府の確立	174	第一次但馬国府	176
但馬国正税帳	181	第一次但馬国府	176	出石勢力の衰退	179
奴婢の貢進	185	逃亡する奴婢	188	律令農民の暮らし	179
軍団	191	但馬軍団の幹部たち	194	調と庸と雜徭	190
但馬軍団の幹部たち	194	条里制遺構	195	但馬の	190
条里制遺構	199	但馬の条里制遺構	197	出石地方の条	197
古代の駅制	200	駅馬の数	203		
第四節 握らぐ律令制	204				
健児の制	204	不足する但馬の口分田	207	出石に来た国守たち	207
莊の盜犯殺害人	213	人口と田積	215	国司の苛政	210
第五節 古代の社寺	218			太田	
出石大社の鳥雀群集	220	出石大社の神宮寺	221		
出石の神階	218	但馬の古仏像	222		
伊福		伊福			
第六節 古代の社寺	218				
出石大社の鳥雀群集	220	出石大社の神宮寺	221		
出石の神階	218	但馬の古仏像	222		
伊福		伊福			
第一節 鎌倉時代の出石	230				
この章のあらまし					
源平争乱と但馬	232				
1					
	232				
	230				
		218		204	
					204
					165

第五節 中世の文化	369
総持寺の歴史	369
出石神社の焼失と再興	374
奉加した人々	378
人々の願い	379
歌枕、入佐の山	380
宗砌と行助	382
宗砌流	385
第五章 近世の出石	390
第一節 近世前期の出石	390
この章のあらまし	390
1 小出家の治世	392
前野但馬守長康のこと	392
小出吉政の入部	394
小出吉英の再封	400
四分家の創設	402
領内の支配組織	403
商人資本の農村進出と藩札の始まり	406
小出家の断絶	409
断絶時の騒擾	413
幕府代官出石城を預かる	415
出石下郡減免嘆願書	416
嘆願書の史料的価値	419
松平忠徳の入部	422
2 貢納制度の確立と寄生地主制の成立	423
但馬の太閤検地	423
元和の検地	426
寛永と正保の検地	427
承応の手直し検地	431
分けの意義	432
分け主は質入れ主	435
激しい土地異動	439
村役人層の交代	445
地主手作經營の行き詰まり	449
寄生地主制の成立	452
散田の意義	453
年貢賦課率決定の手続き	456
高い小作料	462
曲尺相固定化の経過	465
夫米・口米・小物成	473
第二節 近世中期の出石	477

松平忠徳・仙石政明と領知交代	477	政房、政明の養子に決定	482	仙石家臣の人数	485
家老陣と馬廻り・小姓組	488	上げ米に頼る藩財政	491	仙石政辰の治世	495
久美浜領内一揆鎮圧に出動	501	二番手の出動	505	一番手の逮捕活動	508
久道	510	海岸防備令と朝鮮人漂着	513	地方知行制の復活	517
の人選と負担	520	御城付き・御供所村の指定	526	知行付き百姓と手当て方百姓	
城下町出石の発展				遊獵を楽しむ仙石	
出石城の縄張り	530	侍町と社寺	533	城下町とおもな職種	536
師と鍋屋	541	紺屋	543	激しい経済変動に苦しむ藩財政	546
年中勝手方覚書	552	返済延期に抵抗する商人	558	多額の御用銀賦課	547
御用商人	570	大庄屋	574	銀札發行の再開	564
町分の形成	581	酒屋へ流れ込む年貢米	574	米の流通と	
下郷の苦惱		幕府の酒造統制	576	酒造の町であつた出石	577
大庄屋組	589	下郷の景観	593	作事関係諸職人	539
栽培	600	年中行事	594	作事	539
検見手手続き	612	農事暦	599	稻・麦・麻・綿の	
減免交渉により小作人作得は約二割	622	『仙石家譜』水害の記録	606	下郷の苦惱、冠水による稲の被害	609
町方地主の後退と地主の得分	629	牛と農具	603	下郷の苦惱、冠水による稲の被害	609
明和の一揆		預け口・契約小作料	617	稻・麦・麻・綿の	
一〇か村の庄屋、一揆を发起	633	収穫高の関係	620	下郷の苦惱、冠水による稲の被害	609
大庄屋、一揆勢と交渉	643	両極分解を示す農民層の分解	628	下郷の苦惱、冠水による稲の被害	609
救米給付と一揆収拾協力者に褒賞	647	一揆参加者の処罰	650	下郷の苦惱、冠水による稲の被害	609
一〇月一九日に決起				下郷の苦惱、冠水による稲の被害	609

あとがき
〔付図〕
（別箱入）

文化七年 出石城下町絵図

I 総図写真（カラ－）

II 部分写真（モノクロ）

① 旧大手の通り以西で、内堀以北の区域
の区域 ④ 旧谷山町（下谷区）の一部と旧新町（谷山区）

② 内堀の南西部 ③ 旧大手の通り以東で、入佐山以西

④-1 旧鰻山（谷山区）

第二卷

第一章 幕末・維新期の出石

この章のあらまし
2

第一節 幕末期の政情と出石藩	4
藩主の直裁体制	4
京都警衛に派兵	6
三条西季知、多田弥太郎を所望	9
大和行幸の詔勅	
とまどう	12
八・一八政変に増援部隊出兵、直ちに帰藩	14
多田弥太郎暗殺に重臣らを処分	
禁門の変に領内警戒体制を強化	19
桂小五郎、出石に潜伏	23
桂小五郎、長州へ帰	

明治維新期の出石藩	27	仙石銳政固、藩主の養子に	30	征長戦下、西の下谷に一揆	31	洋式銃隊養成に着
手	34	仙石政固、極密之書	36	大政奉還後の出石藩、佐幕色濃厚	40	

第二節

明治維新期の出石藩

鳥羽・伏見の戦いに幕軍潰走	43	正月八日、藩主上京の途に就く	45	西園寺鎮撫總督へ従兵を
派遣	47	京都出陣は全藩士のおよそ三分の一	53	兵制改革
		議事機関設立	61	大・少参事体
藩治職制に基づく藩政改革	58	版籍奉還と出石藩財政	63	
制発足	66	改革の度ごとに階層秩序色減衰	69	仙石騒動に
についての回想	77	荒木家・仙石主計家の消息	75	
村・町役人の組織改革	87	弘道館、文校と武校に分かれる	80	
		女学校設立	82	市校・郷校設立
戸長・副戸長任命	90		83	

第二章 近代社会への歩み

この章のあらまし

第一節 廃藩置県	96	この章のあらまし	94
廢藩の詔書	96		
出石の反響	96		
空き切手の停止	97		
肩代わりされた藩債	99		
廢藩を予期していた藩知事	100		
仙石政固の東京移住	101		

第二節 つかのまの出石県治

出石県の発足	102	出石県の廃止と新豊岡県の発足	103	不安を呼
んだ札引き換え	105	但馬三県の合併伺い出	103	
常備兵隊最後の出兵	106	戸籍編制区と戸長の任命	108	
廃止	112	市校・女学校の		
種痘反対者の処罰	113	士族の失		
豊岡県支庁出石局	113			
豊岡県出石出張局	114			

第三節	大区・小区制の施行	新豊岡県の区制実施	区費の賦課と旧役職の改称	大区・小区制の実施	大区・小
		117	119	120	117
		区制の推移	警察出張所の設置		
		122	124		
第四節	豊岡県から兵庫県へ	兵庫県併合の功罪	豊岡県再置運動	大区・小区制の施行	大区・小区制の実施
		127	128	129	129
第五節	郡区町村編制法による郡と町村	出石氣多郡役所の発足	復活した町村と最	大区・小区制の実施	大区・小
		133	132	130	130
		復活した郡と町村	戸長役場管轄区域の是正	戸長役場区域	大区・小区制の実施
		132	139	139	130
		地方三新法の制定	戸長役場管轄区域の是正	戸長役場区域	大区・小区制の実施
		131	139	139	130
		初の戸長役場	戸長役場管轄区域の是正	戸長役場区域	大区・小区制の実施
		134	139	139	130
		戸長役場管轄区域の拡大	戸長役場管轄区域の是正	戸長役場区域	大区・小区制の実施
		136	139	139	130
		町村委会の発足	戸長役場管轄区域の是正	戸長役場区域	大区・小区制の実施
		145	139	139	130
		出石郡町村聯合会と郡民惣代	戸長役場管轄区域の是正	戸長役場区域	大区・小区制の実施
		148	139	139	130
		但馬国各町村	戸長役場管轄区域の是正	戸長役場区域	大区・小区制の実施
		立憲改進	戸長役場管轄区域の是正	戸長役場区域	大区・小区制の実施
		153	139	139	130
		聯合会	戸長役場管轄区域の是正	戸長役場区域	大区・小区制の実施
		150	139	139	130
		自由民権運動と兵庫県会の発足	戸長役場管轄区域の是正	戸長役場区域	大区・小区制の実施
		151	139	139	130
		自由民権運動の波及と回天社	戸長役場管轄区域の是正	戸長役場区域	大区・小区制の実施
		152	139	139	130
		党の進出	戸長役場管轄区域の是正	戸長役場区域	大区・小区制の実施
		154	139	139	130
第六節	秩禄処分と士族授産	士族の帰農商と家禄奉還	金禄公債の下付	大区・小区制の実施	大区・小
		158	162	160	160
		「藩制」布告による家禄の再削減	士族の帰農商と家禄奉還	金禄公債の下付	大区・小区制の実施
		156	158	162	160
		旧出石藩士族の家禄追給願	士族の職業と生計	金禄公債の下付	大区・小区制の実施
		163	164	162	160
		転職士族の職業と生計	明治九年の出石大火事	金禄公債の下付	大区・小区制の実施
		164	168	162	160
		の影響	大火	金禄公債の下付	大区・小区制の実施
		169	168	162	160
		士族授産事業の着手	士族子女の富岡製糸場派遣	金禄公債の下付	大区・小区制の実施
		170	170	162	160
		士族子女の富岡製糸場派遣	拡産社の製糸工場	金禄公債の下付	大区・小区制の実施
		174	174	162	160
		拡産社の製糸工場	金禄公債の下付	金禄公債の下付	大区・小区制の実施
		178	178	162	160
		第五十五国立銀行の創立	士族銀行から地主銀行へ	金禄公債の下付	大区・小区制の実施
		176	177	162	160
		士族銀行から地主銀行へ	第五十五国立銀行の業態	金禄公債の下付	大区・小区制の実施
		177	178	162	160
		第五十五国立銀行の業態	金禄公債の下付	金禄公債の下付	大区・小区制の実施
		178	178	162	160
		農業改良の推進	通信・運輸の諸施設	金禄公債の下付	大区・小区制の実施
		181	182	162	160

第七章 地租改正と土地制度の変革	地租改正のねらい……… 183 豊岡県の地租改正事業……… 187 山林原野の改租……… 190 地租改正と桜井勉……… 191
第三章 明治後期の出石	田畠勝手作の許可と市街地券……… 184 土地売買の解禁と壬申地券……… 184
第一節 地方自治制度の確立	この章のあらまし……… 町村制の施行……… 196 地方自治の発足……… 198 出石郡役所の役割……… 201 歴代町村長と町村役場……… 205
第二節 立憲政治の進展	立憲政治のスタート……… 210 出石出身代議士の顔ぶれ……… 214 激烈な政争の実態……… 220 有権者の推移……… 220 士族の政治力の低落……… 228 加藤弘之と斎藤隆夫の論争……… 231 出石郡選出兵庫県会議員たち……… 231
第三節 日清・日露の両戦役	出石の兵制……… 241 日清戦争と出石……… 242 日露戦争と出石……… 244 出石出身の軍人たち……… 246 戦没……… 246
農業の発展と農村の暮らし	出石の過疎現象と農業比重の推移……… 262 小野川の改修……… 259 出石の水対策の進展……… 253
第四節 総合	総合……… 253 田畠勝手作の許可と市街地券……… 184 土地売買の解禁と壬申地券……… 184 豊岡県の地租改正事業……… 187 山林原野の改租……… 190 地租改正と桜井勉……… 191 歴代町村長と町村役場……… 205 田畠勝手作の許可と市街地券……… 184 土地売買の解禁と壬申地券……… 184 豊岡県の地租改正事業……… 187 山林原野の改租……… 190 地租改正と桜井勉……… 191

糸業の消長	264	出石・室埴・小坂・神美の地域類型	267	大地主の成長	270	親方子方制度	271
第五節 小坂村の耕地整理	277	耕地整理前の状態	279	田渕惣右衛門の構想	280	耕地整理の設計概要	280
耕地整理の背景	277	出石・神美・小坂にまたがる四部落の耕地整理	286				
工事の実施と成果	283						
第六節 交通機関の立ち後れと商工業の停滞	288	不便な出石の交通事情	288	但馬に向かう鉄道ルート	290	空しかつた出石の陳情	293
		の開通	296	電信・電話の開通	299	山陰線	
				商工業の停滞	302		
第七節 社会の諸相	307	出石初午祭	310	有子稻荷富くじ騒動事件	312		
出石の大名行列	307			大疑獄日糖事件	317		
永楽館のあゆみ	321	出石の野球	325				
第一節 大正期の出石	330						
この章のあらまし	330						
第二節 大正デモクラシーと出石	332						
デモクラシーの但馬への浸透	332						
斎藤隆夫と但馬政界	332						
原敬内閣と普選運動	334						
出石町の青年グループ	337						
出石郡立憲青	337						

第一節 学校教育の進展と変遷	422	年党	339	青年党と社会変革運動	342
この章のあらまし	420	地域発展への夢	343	電灯料金値下げ運動	346
第五章 近代出石の教育と文化	386	出石郡の産業	348	山田豊岡線	351
	386	出石鉄道と山田若桜線	354	但馬師範学校問題	358
第三節 社会生活の近代化	374	出石町の改善事業	362		
電灯のはじまり	386	町立女子芸術学校昇格問題	362	出石町外六箇村実科高等女学校組合設立	365
震災と出石	391	陶磁器(出石焼)の停滞	371	杞柳製品の発展	367
村方の年中行事	392	絹織物の勃興	372		
来構想	383	神美村・室埴村・小坂村の農業改善構想	374		
出石地域の農林業	374	平尾源太夫村長の農業改善	381		
福居堤防の争論	389	平尾源太夫の將	381		
松畷堤防の争論	390				
北但大					

学制の公布と新小学校の設立	422	開校時の状況と弘道小学校の新築	426	初期小学校の制度と内 容	428	教育制度の確立と進展	432	町立女子技芸学校と大正期の教育	436	昭和前期・戰時下 の教育	440
第二節 学問・教育界への進出と活躍	470	出石人の中央進出	446	加藤弘之	449	桜井勉	456	木村熊二	462	巖本善治	466
		桜井恒次郎	473							田中壌	
第三節 宗教・芸術その他	475	廃仏毀釈と寺院の統廢	475	神社と神道教務所	479	牧宗宗寿と精畔宗侃	481	出石雑誌	484	但馬	
		雑誌の刊行	486	松井昇と小坂象堂	490	近藤朔風	492				
第四節 出石焼の改良と諸窯の変遷	497	盈進社の設立と出石焼の改良	497	明治期諸窯の經營	502	高岡焼と渋司焼	506	試験所の設置			
		出石焼の改良	508								
第五節 鶴山とコウノトリ	518	出石と鶴山	518	明治の營渠と鶴山の活況	520	天然記念物指定と保護	523	コウノトリの文芸			
		美術	524	鶴山の閉山と指定の解除	530						
	518								497		
										475	
											446

第六章 昭和前期の出石

この章のあらまし

第一節 昭和恐慌と満州事変

青年党の地方政界進出

536

寺町の火災と区画整理

540

町村税の滞納と納稅組合

543

不況下

の出石実科高女充実問題

548

浜口内閣と森本町長

551

教員給与引き下げ問題

552

恐慌下の

電灯料金値下げ運動

554

町村組合経営電灯構想

558

鉄道請願と出石鉄道の開通

560

経営難

の出石鉄道

564

満州事変と戰時色

568

縮緬工業の發展

570

県立窯作業所と出石焼

572

商工会の不況克服への嘗み

574

公共土木事業の進展

577

カフェーの出現

581

永楽館と大衆

文化

583

536

534

第二節 農業恐慌と農村の経済更生

農業恐慌と出石地域

589

小作争議と自作農創設事業

590

自作農創設事業の展開

594

小坂村

の村内調和への努力

598

大耕地整理の進行

603

部落農会の奨励

607

小坂村長砂部落農会

611

農村経済の自力更生

615

621

室埴村と小坂村の経済更生事業

617

室戸台風の被害と復旧

621

589

第三節 戰時体制の進展

斎藤隆夫と翼賛選舉

627

戦争と国民勤員

632

供出と配給

639

儉約と国防献金

643

戦時

627

下の出石焼と杞柳製品

645

出石鐵道の撤収

648

学童疎開の受け入れ

652

第七章 戦後の出石

この章のあらまし

第一節 太平洋戦争の終結と民主化

天皇の終戦放送……658
復員と海外引き揚げ続く……659
非軍事化と民主化……660
荒廃と窮屈のなかで……661
激しいインフレに苦しむ……662
新地方自治制度の発足……663
続々と新首長・議員誕生……664
自治体警察生まれる……665
自治体消防の発足……667
地方税制の改革……671
自治体警察の廃止……674

第二節 新教育制度の展開と福祉施策の進展

戦時教育体制の解体	631	連合軍の教育政策	631	六・三制教育の発足	632	教育委員会制度の
創設	633	出石高等学校の発足	635	中学校の統合	635	中学校建設で町民税を増徴
民館活動の展開	637	青年団の活躍	639			636 公
婦人会の活動	695	出石病院の誕生	697	室埴村青年団が世論調査	693	星雲会の活動
を開設	700					694
国民健康保険法の実施	703	既存建物を町営住宅に	698	庶民金融に町営公益質屋		

第三節 農地改革と農業協同組合

農地改革の実施 : 705
農地委員会の活動 : 706
農地改革の進展 : 707
農業協同組合の発足 : 711

第四節 特産業の復活と農業振興

出石ちりめんの復活：714
出石焼の再興：718
杞柳産業と鞆のう製品：719
農産物の改良と増産策：719

第五節 町村合併と新出石町の誕生 ······	720	畜産物の復活と拡大······	724	衰退する養蚕業······	725	転換する林業經營······	725				
第六節 合併当時の出石町のすがた ······	728	面積・広ぼう······	748	土地形態······	748	人口・世帯数······	748	業態別の世帯数······	750	産業と就業人口	750
		税の負担状況······	752	財産······	758	負債······	759	予算······	760	銀行・会社・工場等······	761
		学校······	762	文化施設······	764	保健・衛生······	765	道路延長······	766	交通の状況······	767
		通信······	768	出石鉄道の変遷······	769	保育施設······	765				
第八章 発展する出石	774	この章のあらまし ······	774								
第一節 新しい町づくり ······	776	基本計画の策定······	776	新町建設計画の内容······	777						
第二節 町土の保全 ······	782	治山・治水の概要······	782	谷山川放水路事業······	785	小野川放水路事業······	786				
第三節 住みよい環境 ······	788										

第三卷

編集後記

出石町合併三十周年記念事業
917

伊藤美術館の建設 : 918

町民憲章の制定：

919

生物編

I 出石町産生物目録

(1) 菌植物	2	1	解說					
(2) 地衣植物								
(3) 輪藻植物								
(4) 蕨苔植物								
(5) 羊齒植物								
(6) 裸子植物								
(7) 被子植物								
10	10	9	9	9	8	8	8	3

(卷末から)

921

総 目 次

III

24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	
下坂横穴群	塚ヶ谷一号墳	榎見古墳	寺坂の古墳	寺坂一号墳	田多地古墳群・経塚群	入佐山一号墳	茶臼山古墳	鶴塚古墳	長持形石棺	鳥居遺跡	田多地小谷遺跡	古墳時代	入佐山墳墓群	9	94	
坪井横穴	下安良古墳	箱根山古墳群口号墳	211	205	204	203	202	199	152	149	147	144	140	98	98	213
212	211	205	204	203	202	199	152	149	147	144	140	99	98	98	212	

總 目 次

総 目 次

二	仙石氏の藩政	310
1	仙石氏家譜・知行	310
2	家臣	322
3	藩領大槻	370
三	仙石氏『御用部屋日記』	382
1	定例行事	382
2	藩法・制度	405
3	財政・経済政策	458
4	お家験動関係人事	492
5	風俗に関する布令	516
四	近世後期の町方の暮らし	524
1	出石藩『御用部屋日記』	524
2	出石城下町の概要	529
3	触れ・達し	533
4	時の鐘	543
5	民生・福祉行政	544

補遺

六

近世出石の文化

五

村の生活

6	商いと物価	555
7	治安・犯罪	561
8	出石犯科帳	583
9	御褒美	590
10	神社と祭礼	598
11	娯楽・年中行事	603
12	災害	613

第四卷

幕末維新編

一 東門日乗	1
弘道館講師、藩政関与の時代	2
隠居生活の日々、藩政からは疎外	3
仙石騒動発覚、弘道館講師締役に復帰	4
晩年の暗転、再び浮上した老大先生	88 56 38 2
二 御用部屋日記	109

編集後記

総 目 次

六		地方自治制度の確立と立憲政治の進展 ······	1
	2	日清・日露の両戦役 ······	2
	3	農業の発展と農村の暮らし ······	3
	4	社会の諸相 ······	4
五	大正期の出石 ······	501	478
	1 社会生活の近代化と地域発展への夢 ······	509	501
	2 出石鉄道関係資料 ······	535	501
四	近代出石の文化 ······	535	535
	1 出石の神仏 ······	576	535
	2 出石の鶴山 ······	581	535
	3 出石焼関係資料 ······	598	535
	4 出石教学関係碑文 ······	603	535
三	昭和前期の出石 ······	603	535
	1 農業恐慌と農村の経済更生 ······	645	535
	2 戰時統制下の暮らし ······	667	535
二	戦後の出石 ······	· · · · ·	· · · · ·

付
録

付 5	斎藤隆夫著『立憲國民之覺醒』	756
付 4	出石町税決算額の推移	754
付 3	出石町一般会計歳入・歳出決算額の推移	752
付 2	国勢調査にみる人口の推移	751
付 1	出石町内大字・小字一覧	743
	町村合併と新出石町の誕生	691
	戦後の民主化	667

補遺(考古編) (卷末より)
編集後記 (卷末)

執筆者一覧

第一巻〈通史編上〉 昭和五九年三月一日発刊

監修

石田善人 岡山大学教授

第一章一二節 弘原海清
第一章三節 小堀龍一
第一章四節 小幡謹一郎

大阪市立大学助教授
舞鶴海洋気象台予報官
元神戸高等学校長

第二章 池田正男
第三章 石田善人
第五章一・二節、四節一・二項

兵庫県教育委員会社会教育文化財課主任
岡山大学教授

第五章三節 宿南保
第五章四節三項 赤在義信

八鹿町立八鹿中学校教諭
兵庫県文化財保護管理指導委員
出石町史編集室長

第二巻〈通史編下〉 平成三年三月一日発刊

監修

梅谷光信 弁護士・但馬史研究会会长

第一章 宿南保 元八鹿町立青渓中学校教諭
第二章 寺尾庄八郎 兵庫県文書課県史編集担当参事

第三章	梅谷光信	弁護士・但馬史研究会会長
第四章一・二節	伊藤之雄	名古屋大学文学部助教授
第四章三節	梅谷光信	弁護士・但馬史研究会会长
第五章	岡本久彦	兵庫県文化財保護管理指導委員
第六章	伊藤之雄	名古屋大学文学部助教授
第七章	滑川良雄	元兵庫県参事・元県立歴史博物館次長
第八章	明石正信	元関宮町立大谷小学校長

第三卷（資料編Ⅰ）

昭和六二年一月一日発刊

監修

石田善人

岡山大学教授

生物編
考古編

小幡謹一郎
池田正男

元兵庫県立神戸高等学校長
兵庫県教育委員会社会教育文化財課主査

古代・中世編
補遺

石田善人

岡山大学教授

近世編第一・二・三・五章

宿南保

八鹿町立青渓中学校教諭
兵庫県文化財保護管理指導委員

近世編第六章

岡本久彦

前田豊邦
小寺誠

（特別執筆者）

考古編第二章の一部

赤在義信

近世編第四章

考古編第二章の一部

第四卷（資料編Ⅱ） 平成五年三月一日発刊

監修（幕末維新編）

石田善人

岡山大学名誉教授・神戸女子大学教授

監修（近現代編・付録・補遺）

梅谷光信

弁護士・但馬史研究会会长

幕末維新編

宿南保

元八鹿町立青渓中学校教諭

近現代編第一章

寺尾庄八郎

兵庫県文書課県史編集担当参事

近現代編第二章、三章一節、付録五

梅谷光信

弁護士・但馬史研究会会长

近現代編第四章

岡本久彦

元兵庫県立出石高等学校教諭

近現代編第五章

廣井實

出石町史編集委員会会长

近現代編第三章二節、六章一節・二節一項

滑川良雄

元兵庫県參事・元県立歴史博物館次長

近現代編第六章二節二項、付録三・四

長尾家次

出石町史編集委員会副会長

補遺（考古）

小寺誠

出石町教育委員会社会教育課主任

年
編 集
校 閱
表

宿南 保 元八鹿町立青渓中学校教諭
吉谷 礼子 出石町総務課企画係町史担当

編纂のあしあと

昭和三・四・一 石田大策町長、新出石町発足二〇周年を

記念して『出石町史』上・下二巻発刊を企画、町
史編集委員会、同編集室を設置するとともに編集
委員五名、執筆者八名を委嘱し、編纂事業を開始
する。

昭和四・五・九 升田賢一町長就任、町史編纂事業の続行
を指示。

昭和五・三・九 編集委員石田松藏氏（考古・古代・中世の
執筆を兼ねる）、急逝。

昭和五・三・九 編集委員石田松藏氏（考古・古代・中世の
執筆を兼ねる）の後任人事、石田善人氏
(岡山大学教授・兵庫県史編集専門委員)に委員就任を
依頼する。

昭和五・七・五 石田善人氏、委員就任ならびに執筆（古
代・中世）・監修を承諾。

昭和五・七・四 編集委員会を開催、資料編二巻の発刊

を企画する。

昭和五・七・三 町長と協議、『出石町史』は資料編を含
め全四巻（通史編二巻・資料編二巻）構成とするこ
とに決定する。

昭和五・三・八 考古の執筆を池田正男氏（兵庫県教育委
員会社会文化財課主任）に依頼する。

昭和五・一・七 池田正男氏、執筆を承諾。

昭和五・三・二 編集委員・執筆者合同会議を開催、編纂
計画を再検討し新構想に基づき再出発を期す。

昭和五・七・三 京都市の活版部門（年史専門）を有する二
印刷工場（日本写真印刷〔株〕・河北印刷〔株〕）を視察す
る。

昭和毛・二・五 出石町史印刷仕様書により、業者の指
名競争入札を執行する（前二業者）。

昭和毛・三・一 入札の結果、河北印刷株式会社と契約を

締結する。

昭和堯・七・三 新出石町発足二十五周年を記念して、出石町史別冊『分類出石藩御用部屋日記』全一巻の発刊を企画する。

昭和堀・九・一 出石町史別冊『分類出石藩御用部屋日記』を発刊する。

昭和堀・二・一 出石町史別冊『分類出石藩御用部屋日記』の第二刷を印刷発行する。

昭和堀・三・一 『出石町史』第一巻(通史編上)を発刊する。

る。

昭和堀・三・一 寺嶋律氏、編集委員を退任。

昭和堀・四・一 梅谷光信氏、編集委員に就任。

昭和堀・四・二 編集委員会を開催、出石町史第三巻・二卷・四巻の各発刊年度を設定する。

昭和堀・七・一 新事務局人事。

昭和堀・七・九 地元編集委員会を開催、新事務局体制の発足とともにう編集方針の再確認と出石町史第三

卷監修者の人選について協議する。

昭和堀・一〇・一 出石町史第二巻編集打ち合わせ会を開

昭和堀・七・三 石田善人氏に出石町史第三巻の監修を依頼し承諾を得る。

昭和堀・八・二 出石町史第三巻編集打ち合わせ会を開催、本の体裁・監修方針を明らかにする(町史第三卷スタート)

昭和堀・三・七 地元編集委員会を開催、出石町史第一巻の監修者及び執筆陣容について協議する。

昭和堀・四・二 梅谷光信氏に出石町史第二巻の監修を依頼し承諾を得る。

昭和堀・五・一 出石町史第二巻編集打ち合わせ会を開催、本の体裁・監修方針を明らかにする(町史第二卷スタート)

昭和堀・五・二 地元編集委員会を開催、出石町史第二卷の一部執筆未定箇所(章)に係る執筆者の委嘱について協議する。

昭和堀・九・二 明石正信氏に前記未定箇所の執筆を依頼し承諾を得る。

催、執筆予定員数の再配分を行なう。

昭和三・七・九 出石町史第三巻編集打ち合わせ会を開催、出石町史第四巻収録史資料との兼ね合いなど

編纂上当面する課題について協議する。

昭和三・八・一 新事務局人事。

昭和三・八・九 編集委員会を開催、事務局体制の異動にともない出石町史第三巻の体裁・編纂工程を改めて確認する。

昭和三・八・九 出石町史第二巻編集打ち合わせ会を開催、新事務局人事にともない編纂日程等を確認する。

昭和三・九・二〇 出石町史第三巻編集打ち合わせ会を開催、本の構成・印刷仕様書・リーフレット等について協議する。

昭和三・九・二二 出石町史第二巻編集打ち合わせ会を開催、編纂日程の確認及び印刷仕様書について協議する。

昭和三・二・二六 出石町史第一巻・三巻発刊記念祝賀会

る（延べ一九日間に及ぶ）

昭和三・二・二一 「出石町史」第三巻（資料編I）を発刊する。

昭和三・一・二六 出石町史第一巻・三巻発刊記念祝賀会を開催する。

昭和三・二・一〇 編集委員会を開催、出石町史第二巻の調査・執筆進捗状況をもとに発刊期日に至る編纂工程を更に詰める。

平成元・三・六 編集委員会を開催、出石町史第四巻の編集方針・執筆陣容等について協議する。

平成元・三・三五 編集委員会を開催、出石町史第四巻構成内容の検討と執筆陣容等について再協議する。

平成二・三・四 編集委員会を開催、出石町史第四巻の執筆陣容につき再考。

平成二・四・七 出石町史第四巻編集打ち合わせ会を開催、執筆・監修者の委嘱及び本の構成・執筆分担等について協議する。

平成二・八・六 石田善人氏に出石町史第四巻幕末維新編

の監修を依頼し承諾を得る。

平成二・二・九 出石町史第四巻編集打ち合わせ会を開催、
収録史資料及び頁数の配分等について協議する。

平成五・三・一 『出石町史』第四巻（資料編Ⅱ）を発刊する。
平成五・六・四 出石町史第四巻発刊・全四巻完結記念祝賀会を開催する。

平成三・三・一 『出石町史』第二巻（通史編下）を発刊する。
平成三・三・元 出石町史第二巻発刊記念祝賀会を開催する。

賀会を開催する。

平成三・四・〇 出石町史第四巻編集打ち合わせ会を開催、
収録史資料の選定基準（価値・範囲）等について協議する。

平成六・三 編集委員会を解散する。
平成七・三 『出石町史』年表を発刊する。

平成三・九・一 出石町史別冊『分類出石藩御用部屋日記』
第三刷を印刷発行する。

平成四・一・四 出石町史第四巻編集打ち合わせ会を開催、
本の構成・印刷仕様書等について協議する。

平成四・三・四 出石町史第四巻編集打ち合わせ会を開催、
編纂工程の確認及び総頁数・目次調整等について
協議する。

平成四・五・三 編集委員会を開催、収録史資料の最終調整を図る。

出石町史 年表（別冊）

平成7年3月31日発行

編 集 出石町史編集事務局

発 行 出 石 町

印刷・製本 河北印刷株式会社

京都市南区唐橋門脇町28
